

資質・能力の育成を目指した校内授業研究の開発：
小学校社会科における歴史的思考力の育成を目指し
た単元構成原理の開発に焦点をあてて

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2019-03-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山路, 崇仁, 石上, 靖芳 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00026340

資質・能力の育成を目指した校内授業研究の開発

—小学校社会科における歴史的思考力の育成を目指した単元構成原理の開発に焦点をあてて—

2020 年度に完全実施される小学校学習指導要領においては、これまでの「何を知っているか」のコンテンツ・ベースの学力観から、社会において「何ができるか」のコンピテンシー・ベース（資質・能力の育成）の学力観へ、すなわち、世界標準の学力観への転換に向け舵が切られました。

資質・能力を育成する授業研究の方法論を開発していくことは喫緊の課題です。しかし、方法論や授業改革など質の転換の必要性は感じていても「何を」「どのように」すればよいのでしょうか。そこで、本研究では、この問に答えるべく資質・能力の育成を目指した校内授業研究の開発に取り組みました。

本リーフレットでは、社会科歴史分野における資質・能力である「歴史的思考力」に着目し、先行研究を整理するとともに、小学校社会科歴史分野において「何を」身に付け、「どのように」授業を展開すればよいのか具体的に単元の構成原理を開発し、その効果について検証しました。

本研究の手続きは以下の通りで実施しました。

- 1 社会科歴史分野における資質・能力の整理
- 2 単元デザインの構成原理の開発
- 3 授業実践 古代(10 時間), 中世(9時間), 近世(8時間)
- 4 評価方法(パフォーマンス評価)
- 5 効果の検証

なお、本研究は、静岡県内の先生たちと協働して単元の開発・実践・評価に取り組んでいます。新学習指導要領の趣旨の実現に向け、資質・能力を基盤とした校内授業研究推進の一助にいただければ幸いです。

1 社会科歴史分野における資質・能力の整理

社会科歴史分野における重要な資質・能力は「歴史的思考力」を育成することと捉えました。本研究では、歴史的思考力を「A 史料を読み取り、内容を把握・理解する力」「B 歴史解釈を批判的に分析する力」「C 時代構造の変化を把握する力」「D 歴史を現代に活用・転移させる力」の4つに定義し、その育成を単元開発、実践を通して目指しました。

歴史の授業 ≠ 暗記

何を身に付けるの？

歴史的思考力

A 史料を読み取り、内容を把握・理解する力

(歴史事象の具体的内容を史料から読み取り、理解するという資質・能力)

B 歴史解釈を批判的に分析する力

(ある歴史事象を様々な視点から批判的に考えたり、分析したりする資質・能力)

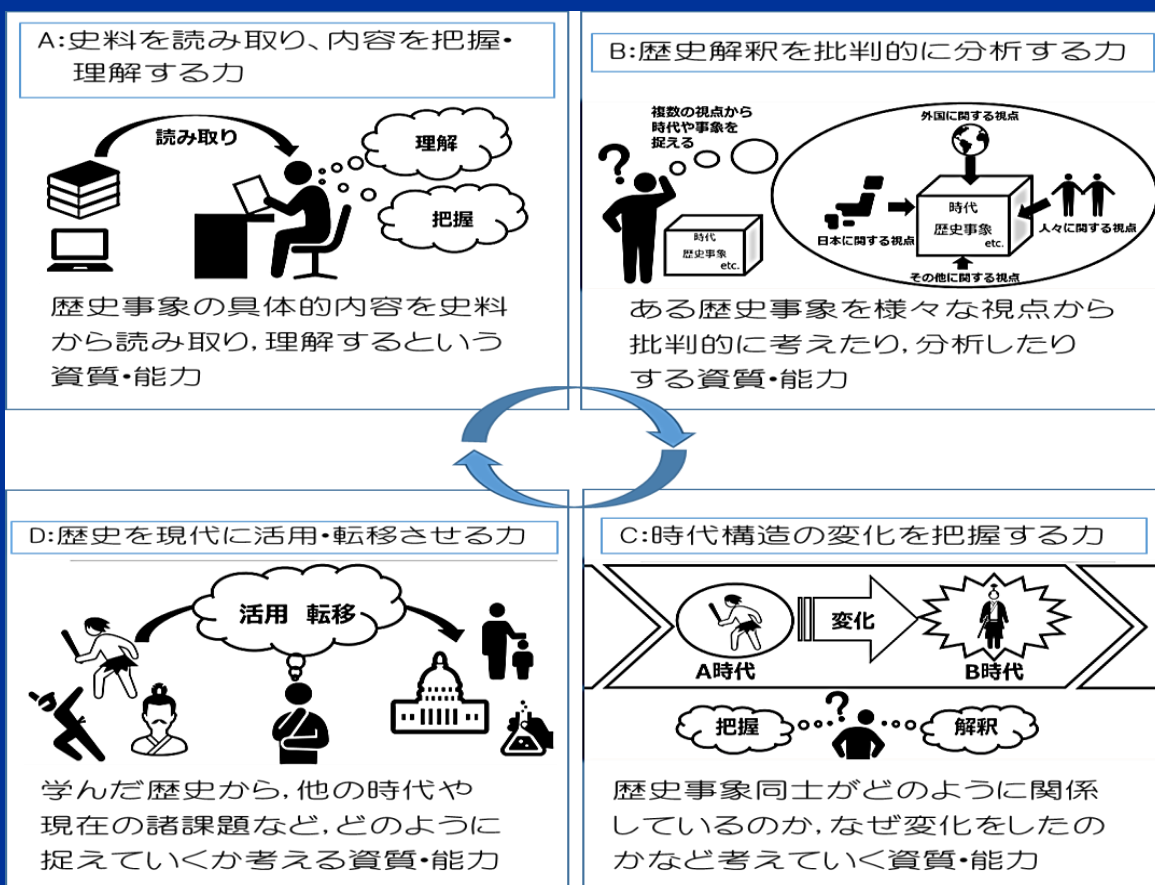
C 時代構造の変化を把握する力

(歴史事象同士がどのように関係しているのか、なぜ変化をしたのかなど考えていく資質・能力)

D 歴史を現代に活用・転移させる力

(他の時代や現在をどのように捉えていくか考える資質・能力)

【歴史的思考力の4つの構造から捉えた具体的イメージ】



2 単元デザインの構成原理

歴史的思考力の育成を目指し、単元の構成原理を「第1段階:トピック理解期」「第2段階:概念形成期」「第3段階:概念知識の深化期」の3段階に整理しました。

「第1段階:トピック理解期」は、歴史事象の内容を理解する時期、「第2段階:概念形成期」は、歴史事象を組み合わせる概念を形成する時期、「第3段階:概念知識の深化期」は、概念的な理解から時代を包括的に捉える時期として、歴史的思考力を働かせることで獲得すべき知識構造を具体的に示しました。

単元名		古代の日本の国づくりの特徴を理解しよう																				
第1段階: 概念知識の深化期	第2段階で総合された概念知識を活用、転移することのできる概念知識を形成する。																					
	深化	・歴史を辿ると、どの時代も核となる対象を中心に国づくりが行われている。 ・自分達の生きている現在の日本は国民中心の国づくりが行われている。 ・未来の日本は〇〇中心の国づくりを目指すかもしれない。																				
	第2段階で総合された概念知識を複数単元で比較・関連・総合させる。																					
	概念知識の比較・関連・総合	・古代の日本は「天皇」中心、中世の日本は「武士」中心の時代であった。その時代ごとに、必ず「中心」となる人物や対象があるのではないかと。 ・近世は「戦国武将」が中心となって、国づくりを行っていた。時代ごとに中心となる対象があった。																				
第2段階: 概念形成期	各時代の概念知識を総合させ、大きな時代区分の概念知識を形成する。																					
	概念知識の総合	・古代の日本では、人物や立場、宗教など、対象となるものは異なるが、核となる対象を中心に置いた国づくりを目指した。																				
	まとめられたトピックの内容を比較・関連させ、その時代の概念知識を形成する。																					
	概念知識	飛鳥時代 大陸から仏教や文化、制度を学び、天皇を中心とした国づくり(中央集権国家)を目指した。	奈良時代 大陸から仏教や文化、制度を積極的に取り入れ、仏教を中心とした平和な国づくりを目指した。	平安時代 貴族が天皇の立場を利用し、政治などで主導権を握り、貴族が中心となる国づくりを目指した。																		
第3段階: トピック理解期	基礎知識として必要なトピックの概要を調べ、視点に沿って、複数のまとまりを作る。																					
	具体的なトピック	飛鳥時代 <table border="1"><tr><td>日本(国内政治等)</td><td>外国(外交、文化等)</td><td>人々(生活、文化等)</td></tr><tr><td>冠位十二階 十七箇条憲法 摂政 大化の改新 律令</td><td>遣隋使 小野妹子 仏教</td><td>法隆寺 租、調、庸 口分田</td></tr></table>	日本(国内政治等)	外国(外交、文化等)	人々(生活、文化等)	冠位十二階 十七箇条憲法 摂政 大化の改新 律令	遣隋使 小野妹子 仏教	法隆寺 租、調、庸 口分田	奈良時代 <table border="1"><tr><td>日本(国内政治等)</td><td>外国(外交、文化等)</td><td>人々(生活、文化等)</td></tr><tr><td>大仏づくり 国分寺 東大寺 律令</td><td>大陸文化 正倉院 鑑真 遣唐使 仏教</td><td>行基 古事記 日本書紀</td></tr></table>	日本(国内政治等)	外国(外交、文化等)	人々(生活、文化等)	大仏づくり 国分寺 東大寺 律令	大陸文化 正倉院 鑑真 遣唐使 仏教	行基 古事記 日本書紀	平安時代 <table border="1"><tr><td>日本(国内政治等)</td><td>外国(外交、文化等)</td><td>人々(生活、文化等)</td></tr><tr><td>貴族 摂関政治 寝殿造</td><td>遣唐使の廃止</td><td>枕草子 源氏物語 かな文字 国風文化 極楽浄土</td></tr></table>	日本(国内政治等)	外国(外交、文化等)	人々(生活、文化等)	貴族 摂関政治 寝殿造	遣唐使の廃止	枕草子 源氏物語 かな文字 国風文化 極楽浄土
		日本(国内政治等)	外国(外交、文化等)	人々(生活、文化等)																		
冠位十二階 十七箇条憲法 摂政 大化の改新 律令	遣隋使 小野妹子 仏教	法隆寺 租、調、庸 口分田																				
日本(国内政治等)	外国(外交、文化等)	人々(生活、文化等)																				
大仏づくり 国分寺 東大寺 律令	大陸文化 正倉院 鑑真 遣唐使 仏教	行基 古事記 日本書紀																				
日本(国内政治等)	外国(外交、文化等)	人々(生活、文化等)																				
貴族 摂関政治 寝殿造	遣唐使の廃止	枕草子 源氏物語 かな文字 国風文化 極楽浄土																				

【単元を開発・構成する上での構成原理】

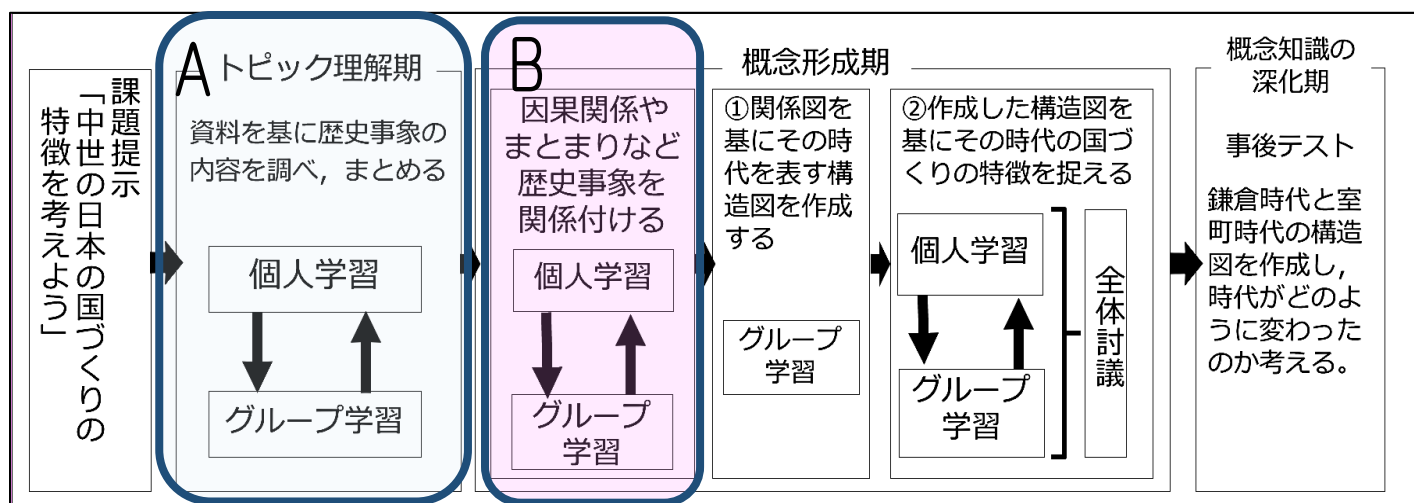
- 「第1段階:トピック理解期」
その時代の歴史事象の内容を調べ、複数の視点に分け、まとめていく段階です。
- 「第2段階:概念形成期【比較・関連】」
第1段階でまとめた視点を基に歴史事象同士の関係付け、視点ごとの関係付けを行い、その時代の特徴を捉えていく段階です。
- 「第2段階:概念形成期【総合】」
その時代を構造的に捉え、時代をまとめて「古代の日本」などというように大きな時代として捉えていく段階です。
- 「第3段階:概念知識の深化期」
複数単元の概念知識と概念知識を関連付けることで、より大きな抽象的な概念知識を形成し、他の時代理解に活用できる転移可能な能力であり、概念知識を精緻化し、拡大していく段階です。

3 -1 授業実践事例

歴史的思考力の育成を目指した単元デザインの構成原理に基づき単元を開発・実践した手続きに関して説明します。

本実践は歴史事象を3つの視点「日本に関する出来事」「外国に関する出来事」「人々に関する出来事」から捉えさせ、歴史事象同士の繋がりから概念的な知識の構築を行い、その時代の特徴を表す構造図をグループと個人で作成し、複数の時代の構造図の比較から、その時代の特徴や変遷について包括的な理解を図るよう実践を行いました。

実践II「中世の日本の国づくりの特徴を理解しよう」



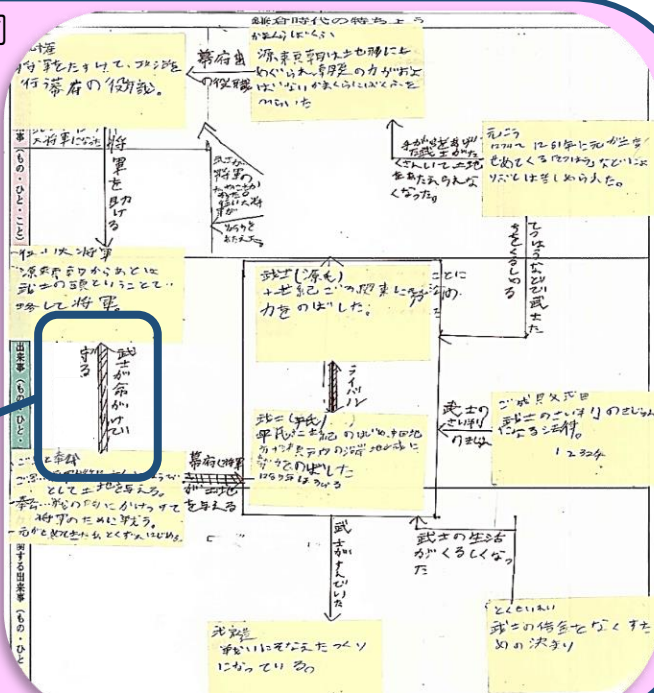
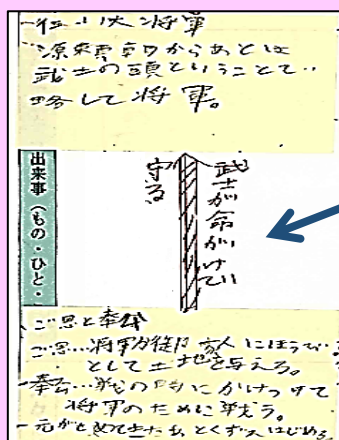
A



教科書、資料集などから調べたその時代を象徴する歴史事象を付箋紙にまとめていきます。歴史事象は、3つの視点（本研究では「日本に関する出来事」「外国に関する出来事」「人々に関する出来事」）を軸として設定し、まとめました。

B

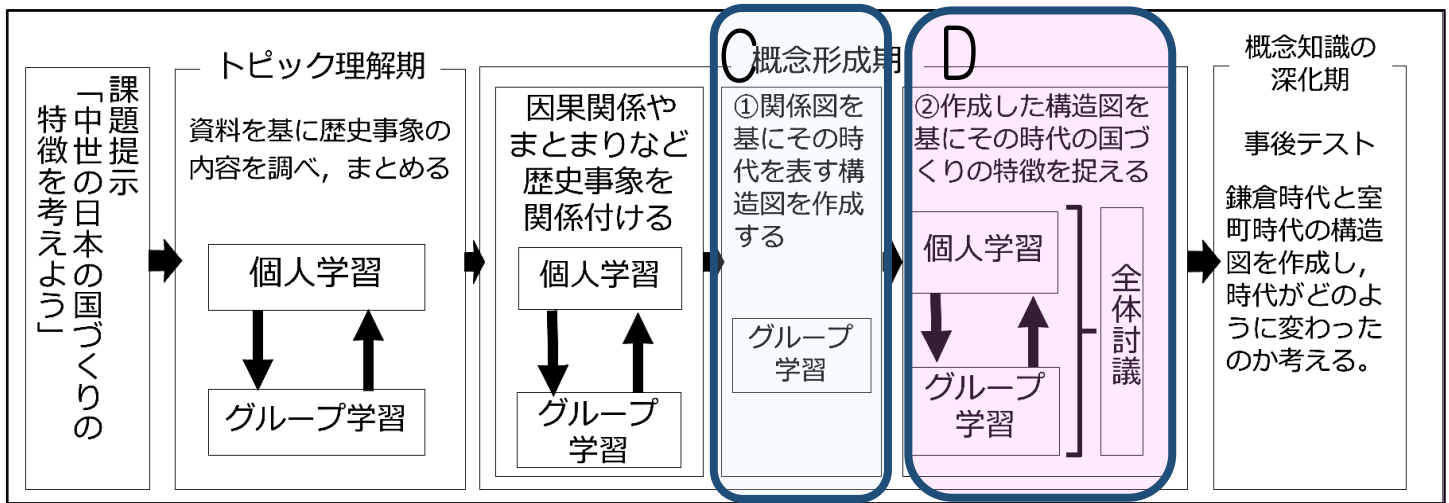
調べた歴史事象の内容から、歴史事象同士がどのような関係性があるのか考え、関連付けます。
因果関係…矢印の向き
関係の強さ…線の太さ



3 -2 授業実践事例

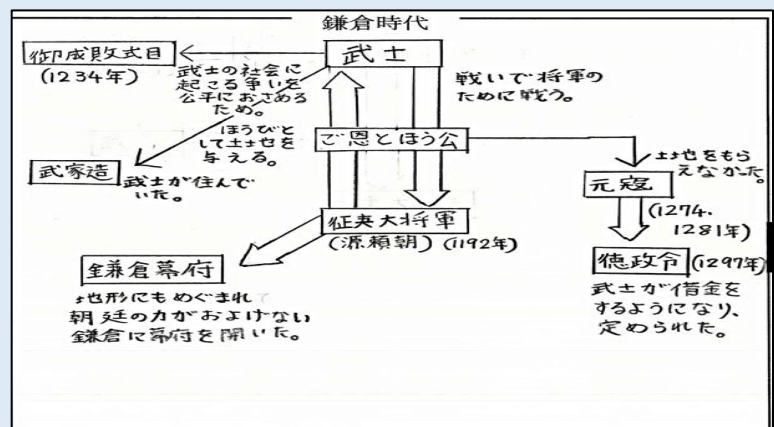
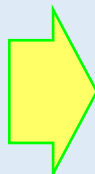
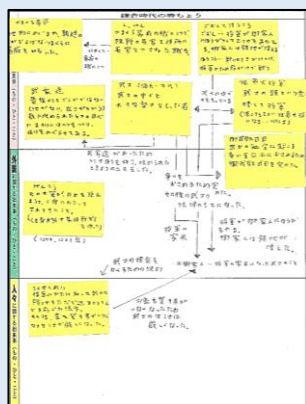
2018 年5月～7月末にかけて、単元デザインの構成原理に基づき、下記の通り、3つの単元を開発し、計 27 時間の授業実践を行いました。

- 実践Ⅰ「古代の日本の国づくりの特徴を理解しよう」(飛鳥, 奈良, 平安) 全10時間
 実践Ⅱ「中世の日本の国づくりの特徴を理解しよう」(鎌倉, 室町) 全 9時間
 実践Ⅲ「近世の日本の国づくりの特徴を理解しよう」(戦国, 安土桃山, 江戸) 全 8時間



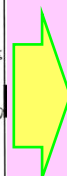
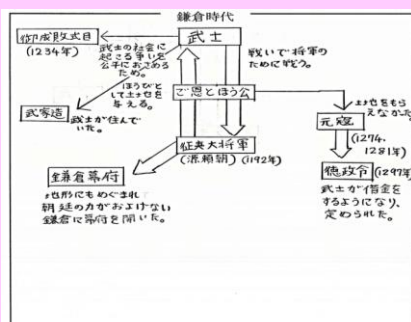
関係図を基にその時代の特徴を表す構造図を作成していきます。

C



D

作成した構造図を基に、その時代の特徴について考えていきます。時代の共通点を見つけ出すことでどのような特徴があるのか、どのように時代が変遷していったのかについて、考えを深めます。



自分たちでつくった構造図をもとにして、中世の日本(鎌倉時代、室町時代)の国づくりについて、視点ごと表にまとめて、比べよう。			
	鎌倉時代	同じ点、似ている点	室町時代
日本	せいゐ大將軍が決まり、日本をまとめていた。 源頼朝	せいゐ大將軍を中心に政治を行く。	足利義満が京都の室町に役所を移す。
外国	元寇が起きて、1274年、1281年に二度 せめてきた。 元寇	日本とのつながりが関係深い中国	幕府を開く事で、義満が勘合貿易をひんぱんに行った。
人々	徳政令、ご成敗式目があり武士のためにほつろをつくる。 武家造 法律	ほつろをつくる、人々を束ねる、有力な人物がいた。	茶の湯、能と狂言の文化が発展して、くらしが良くなった。 文化
鎌倉時代の国づくりの特徴は、鎌倉時代は武士中心の時代、せいゐ大將軍のまとめる力がある。			
室町時代の国づくりの特徴は、足利義氏が幕府を広くして文化が広まった。			
中世の日本の国づくりの特徴は、鎌倉時代、室町時代には有力な人物がせいゐ大將軍になったため国作り、文化が発展した。そして、中国との関係をつくりかん合貿易をした			

4 評価方法（パフォーマンス評価）

それぞれの単元終了後にパフォーマンス評価、実践Ⅲ終了3ヶ月後に総括的なパフォーマンス評価を行いました。その4回の課題を共通の視点で評価するためにルーブリック(評価指標)により、児童の記述を5段階に設定し、得点化しています。今回は歴史的思考力の「A 史料を読み取り、内容を把握・理解する力」「B 歴史解釈を批判的に分析する力」「C 時代構造の変化を把握する力」を「知識」、「表現」、「思考」として捉え、5点～1点に得点化し、複数の教員で評価しました。

歴史的 思考力	資質 能力	評価の内容	評価の観点
A 史料を読み取り、内容を把握・理解する力	「知識」	その時代を象徴する歴史事象の内容や特徴を捉え、歴史事象同士を関係付けながら理解することができる。	5 歴史事象の内容について十分理解、説明でき、また関連性を正しく捉え、歴史事象同士の関係付けに説明を加えることができる。
			4 歴史事象の内容や関連性を概ね理解し、歴史事象同士の関係付けに概ね説明を加えることができる。
			3 歴史事象の内容や関連性を概ね理解し、歴史事象を関係付けることができる。
			2 歴史事象の名前を一部理解し、自分なりに解釈をして、歴史事象を関係付けることができる。
			1 歴史事象の名前を一部理解しているが、歴史事象同士を関係付けることが難しい。
B 歴史解釈を批判的に分析する力	「表現」	中心概念を構造図に配置したり、複数の視点をまとまりとして示したりと、構造的に表現することができる。	5 中心概念や視点を構造的に表現し、3つ以上の視点のまとまりをつくり関連させることができる。
			4 中心概念や視点を構造的に表現し、2つの視点のまとまりをつくり関連させることができる。
			3 中心概念や視点を構造的に表現し、歴史事象のまとまりを概ね関連させることができる。
			2 自分なりに解釈をして、その時代の中心となる歴史事象を構造図に配置している。
			1 歴史事象を構造図にただ配置している。
C 時代構造の変化を把握する力	「思考」	その時代の特徴を捉え、複数の時代を比較・関連させることで時代間の特徴を説明することができる。	5 各時代の特徴について捉えた内容を時代間で比較・関連させることで、新たな解釈を導き出すことができる。
			4 各時代の特徴について捉え、時代間の特徴を比較・関連させ記述している。
			3 時代の特徴について捉えているが、時代間を比較・関連させて解釈していない。
			2 時代の特徴の一部を捉えているが、時代間の特徴を比較・関連させて解釈することができない。
			1 時代の特徴の一部を捉えることや時代間の特徴を比較・関連させて解釈することができない。

【パフォーマンス評価】

下の構造図の囲みの様に「知識」は歴史事象の内容、関係性の記述、「表現」は視点でのまとまりの記述、「思考」は時代の特徴、時代変遷の解釈の記述を評価しました。

【知識】鎌倉時代を矢印でかきましよう。矢印や線、囲みには説明を書きましよう。

【表現】室町時代を矢印でかきましよう。矢印や線、囲みには説明を書きましよう。

【思考】鎌倉時代から室町時代へどのように変わったのでしょうか？矢印や線、囲みには説明を書きましよう。

中心人物が変わった。鎌倉時代は、足利氏と法皇が中心で、室町時代、今も続く文化が中心。

「知識」
歴史事象の内容
歴史事象の関係性

「表現」
歴史事象視点ごと
まとまりで捉える

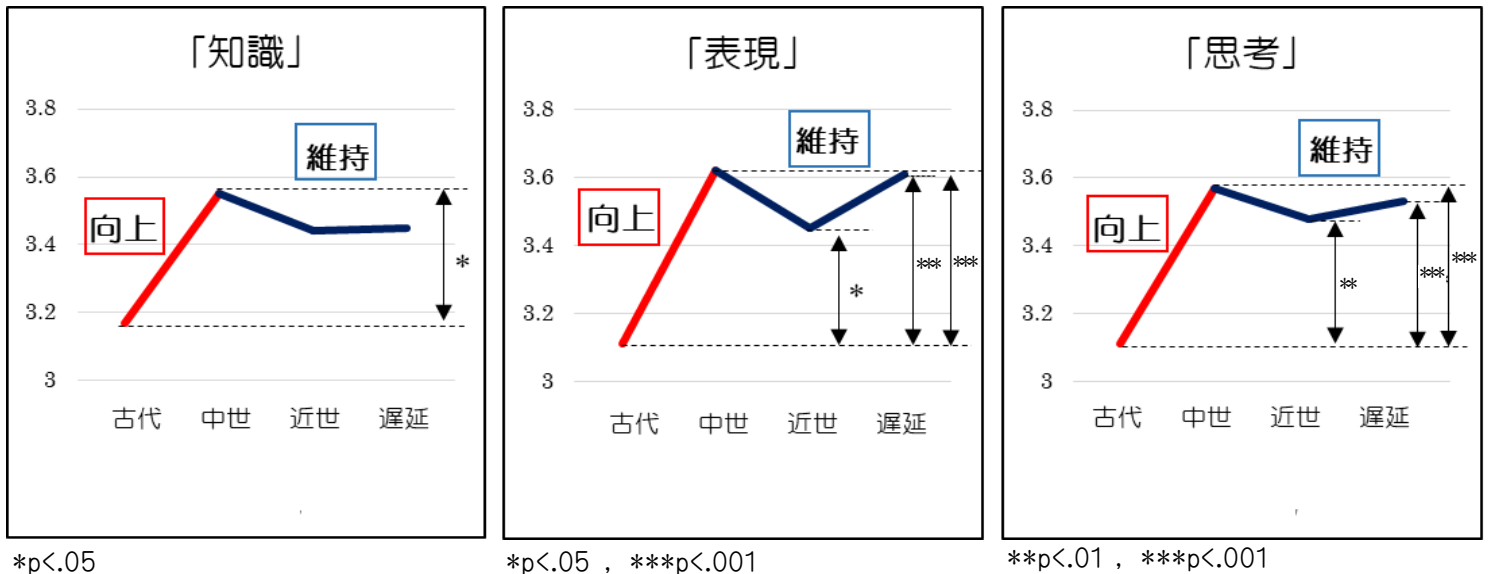
「思考」
時代の特徴の捉え
時代変遷の解釈

5 効果の検証

ルーブリック(評価指標)に基づいて4回のパフォーマンス評価を得点化しました。

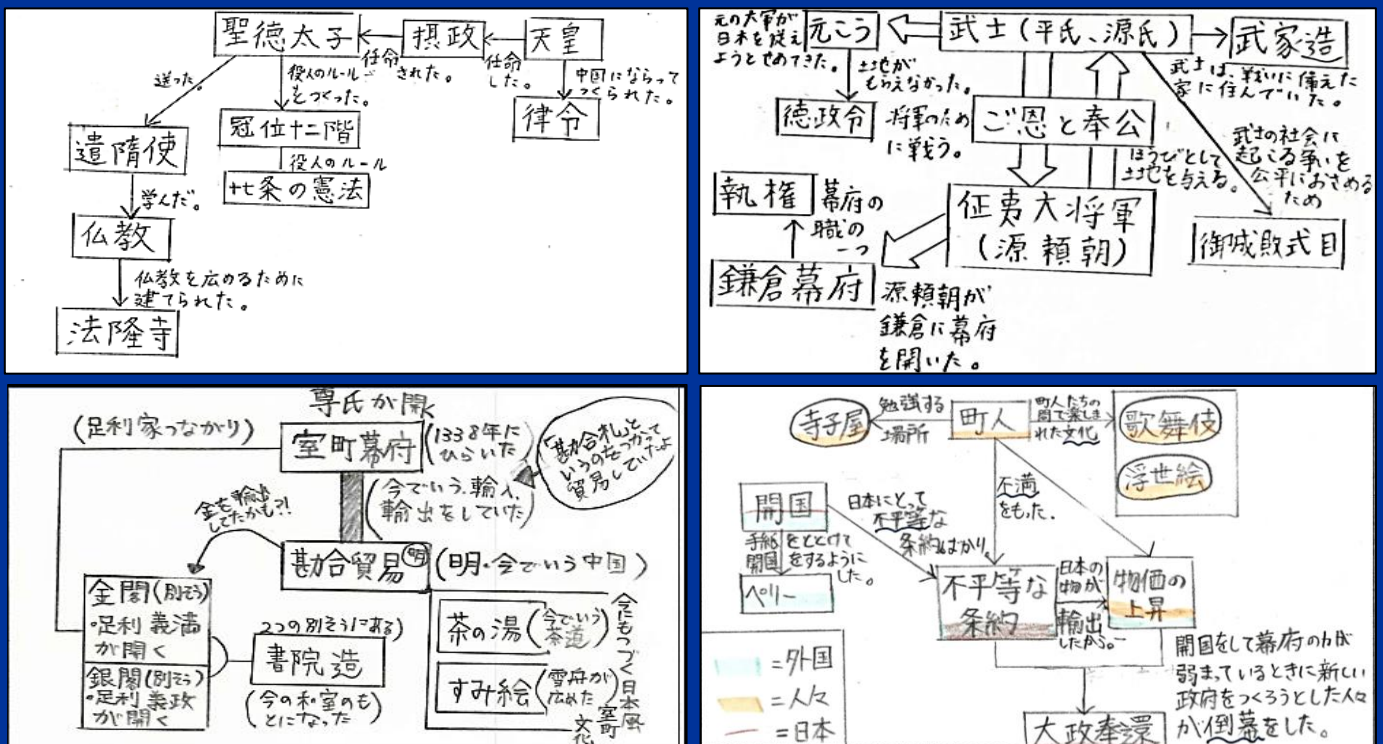
その結果、「古代」から「中世」にかけて、「知識」「表現」「思考」の質・能力は向上し、「近世」以降は、その資質・能力が維持されていることが分かりました。つまり、歴史的思考力の育成を目指して開発した3つの視点から歴史事象の構造化を図る单元デザインの構成原理は、「知識」「表現」「思考」の資質・能力を向上させることが明らかになりました。

学年全体における事後テスト、遅延課題の各観点の平均得点の推移



【構造図＝思考の過程, 構造的理解の可視化】

どのように時代を理解しているか構造図として作成したことで、言語による記述のみでは見えにくい児童の思考の過程や理解の様子を可視化することができました。



6 成果と今後の展望

本研究の目的は、小学校社会科歴史分野における資質・能力である「歴史的思考力」を整理し、具体的に単元を開発し、その実践と評価を通して、「歴史的思考力」を育むための単元デザインの構成原理を明らかにすることでした。

3つの単元の授業実践、4回のパフォーマンス評価から、歴史的思考力を構成する「知識」「表現」「思考」の資質・能力の向上を確認することができ、開発した単元デザインの構成原理の妥当性を示すことができました。

今回開発した単元デザインの構成原理を踏まえ、さらに効果・効率的な単元のリ・デザインを行い、実践に取り組んでいきたいと考えます。忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

【成果】

○小学校社会科歴史分野における育成すべき資質・能力を歴史的思考力に設定し、その具体的な構造を「A 史料を読み取り、内容を把握・理解する力」「B 歴史解釈を批判的に分析する力」「C 時代構造の変化を把握する力」「D 歴史を現代に活用・転移させる力」の4つに明確化し、単元開発を行ったこと。

○歴史的思考力を育成するための単元デザインの構成原理に基づく歴史事象の構造化を図る本実践は有効であることが確認された。

【今後の展望】

○歴史的思考力の資質・能力を育成するために開発した単元デザインの構成原理を踏まえた上で、方法知と内容知の習得状況の関係や影響を具体的に明らかにすること。

○個別の歴史事象の内容を深く理解することができる単元のリ・デザインの検討を踏まえ実践すること。

○歴史的分野に限らず、地理的分野、公民的分野など、他分野での実践・評価を行うこと。

【本研究に関連する論文】

戸田宇海・石上靖芳(2017)「社会科歴史分野における歴史事象の認識の変容を促すことを目指した単元開発と効果の検証

—小学校社会科における『鎖国』史観を対象として—」静岡大学教育学部研究報告(教科教育学篇)第49号, pp.57-71

臼井秀明・石上靖芳(2018)「小学校社会科における『歴史的思考力』を育成する単元開発と評価方法に関する

実践研究—『社会的な見方・考え方』に焦点をあてて—」静岡大学教育学部研究報告(教科教育学篇)第50号, pp.39-54

山路崇仁・石上靖芳(2018)「小学校社会科歴史分野における時代の構造的な理解を促進する単元開発とその

評価—歴史的思考力の育成に焦点をあてて—」静岡大学教育学部研究報告(教科教育学篇)第50号, pp.55-70

【発行日】

平成31年3月28日

【制作(静岡県アクション・リサーチ研究会)】

静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻(教職大学院)教育方法開発領域

山路崇仁(御殿場市立富士岡小学校 教諭) yamaji1018@gmail.com

静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻(教職大学院)教育方法開発領域 教授

石上靖芳 ishigami.yasuyoshi@shizuoka.ac.jp

【協働研究者(静岡県アクション・リサーチ研究会)】

高木由香(静岡県教育委員会義務教育課 教育主査)

小笠原忠幸(静岡市教育センター 指導主事)

櫻井英喜(静岡大学教育学部附属浜松小学校 教諭)

火物憲二(静岡市立清水有度第二小学校 教諭)

工藤麻耶(浜松市立芳川小学校 教諭)

鈴木美智(沼津市立第四中学校 教諭)

渡野広貴(彦根市平田小学校 教諭)

臼井秀明(静岡県総合教育センター 教育主査)

黒柳幸夫(静岡大学教育学部附属浜松中学校 教諭)

田村響太郎(袋井市立周南中学校 教諭)

戸田宇海(静岡市立清水興津小学校 教諭)

松原祐記子(浜松市立曳馬小学校 教諭)

前島純司(富士市立富士南小学校 主幹教諭)

田代啓太(静岡大学教職大学院 院生)